

NPO法人 いわむら一斎塾（恵那市）

中心市街地

文化、歴史、人づくり

取組の背景

- ・恵那市岩村町は人口 5,578 人 (H18. 11. 1 現在)
- ・岩村の城下町（400 年余りの歴史を生き続けてきた町で、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定）、岩村城址（日本 100 名城）、阿木川ダムこぼし公園などの観光資源がある。
- ・旧岩村藩は佐藤一斎の他、林術斎（儒学者）、下田歌子（女子教育）、三好学（植物学）などを輩出した教育藩である。

取組の概要

- ・所在地：恵那市岩村町 317 番地 いわむら城下町の館内
- ・設立：平成 8 年 7 月（法人設立は平成 17 年 7 月）
- ・会員：76 人（正会員）
- ・役員：理事長、副理事長 1、理事 5、監事 2
- ・財源：年会費（正会員 3,000 円、賛助会員 10,000 円、協力会員 30,000 円）、市からの助成金、寄付金（法人）
- ・組織：総会（年 1 回）、理事会
- ・事務局：2 名
- ・設立経緯：平成 8 年 7 月に「佐藤一斎研究会」を発足し、月 1 回の佐藤一斎の著書『言志四録』の講読会を中心に活動してきた。研究会が設立 10 周年を迎えるに当たり「21 世紀の人づくり、心そだて」を応援するため、NPO 法人を立ち上げた。佐藤一斎研究会を発足したのは、郡上市（旧大和町）の古今伝授の里を訪れた際に東常縁（とうつねより）について研究する会を見たのがきっかけ。岩村町には佐藤一斎がいるのに公民館講座もなかった。そのため、佐藤一斎の教えを研究する会を発足した。

取組の内容

【活動目的】

広く一般住民に対して、21 世紀を生き抜く教養豊かな人材と指導者を養成するために、郷土が生んだ幕末の碩学佐藤一斎の教えを基本理念

として、広く高い見地から多様な学習と修養の場づくりに関する事業を行い、子供から大人まで幅広い層に至るまでの「人づくり」、「心そだて」及びそれを活かしたまちづくりの推進に寄与することを目的とする。

【活動内容】

- ①佐藤一斎の教え（「言志四録」）を学ぶ定例学習会の開催
 - ・毎月第 2 土曜日に参加料無料で、現在までに 108 回開催
 - ・1 回当たりの参加者は約 20 名、60 歳以上の方、女性が多い。
- ②郷土の先人や歴史に関する公開講座及びワークショップの開催
 - ・外部講師（大学教授、作家等の専門家）による講演会を開催
- ③各種団体等からの要請による郷土の先人に関する講師の派遣
- ④郷土の先人に関する情報誌・書籍の発行
 - ・『親子で読む「言志四録」～おじいちゃんとおばあちゃん～』平成 18 年 2 月発行
 - ・一斎の言葉を教育の現場で活用してもらうため、1 万冊発刊し、約半数を地元の小中学生や教育関係者に無償配布
- ⑤郷土の歴史や先人に関する書籍・論文・資料の収集
- ⑥郷土の先人の知恵を今に活かすイベント・フォーラム等の開催及び協力
 - ・NPO 法人いわむら一斎塾法人化記念事業として、平成 18 年 5 月 5 日「江戸期の偉大な三先人に学ぶ～人づくり心そだては、まちづくり～」フォーラムを開催
 - ・鈴木東海市長、鈴木豊田市長、可知恵那市長が細井平洲、鈴木正三、佐藤一斎の教えから、まちづくりについてトークショーを行った。
- ⑦郷土の先人から学ぶ関係団体との研修会及び交流会の開催

成果

○住民による人づくり、まちづくりの体制とし

て、「NPO法人いわむら一斎塾」が発足されている。

- NPO法人いわむら一斎塾の取組みについて、全国から視察があり、また応援されている。「先人に学ぶ」他団体との交流が出来るようになってきている。平成19年度には全国10団体での交流会を考えている。
- 佐藤一斎の教えを基に「人づくり心そだて」のための事業（定例学習会、公開講座、会報・書籍の出版等）が実施されている。



佐藤一斎翁座像（岩村藩藩主邸跡）

成果の要因

- 佐藤一斎研究会という組織を活かし、NPO法人化できた。佐藤一斎研究会として佐藤一斎の教え等を研究するだけではもったいないと考え、「これを外へ広めたい」、「今の世の中に必要な原理・原則」という思いが強くなり法人化した。
- 佐藤一斎顕彰会（主に全国へ佐藤一斎を発信する団体）との連携、他の先人に学ぶ団体との交流により、全国へ「人づくり心そだて」を発信している。
- 各種事業を実施するには費用がかかるが、いわむら一斎塾の取組みを理解してくれる人等からの寄付があり、これらを財源として各種事業を実施している。

今後の課題

- 財源の確保、組織の確立
 - ・いわむら一斎塾の事業を実施していくためには、財源が必要である。勉強会等での参加料徴収についても検討が必要である（岐阜市あたりでは1,000円とっても人は来る

かもしれないが、岩村では無料が基本になっている）。

- ・財源確保から事業実施まで活動していくには、役割分担を明確にした組織を確立する必要がある。また、現在のいわむら一斎塾の実働部隊は70歳程度の女性であり、若返りが必要である（徐々にではあるが、若い世代も勉強会などに参加している）。
- 「岩村町のまちづくり」への関わり方
 - ・いわむら一斎塾が実施している「人づくり心そだて」はまちづくりに必要となると考えているが、そのためには、既存のまちづくり団体との連携、より多くの岩村町民の理解が必要である。今は、どちらかといえば町外からの応援の方が多い。
 - ・生涯学習のまちづくりに結びつけていきたい。町全体を学習の場とし、岩村町に来ると何か勉強できるという町にしていきたい。
- いわむら一斎塾の活動に対する評価
 - ・「人づくり心そだて」は清掃活動等のようにすぐに結果が現れるものではない。今の子供達が大きくなった頃に成果が現れてくるものである。このことを人に理解してもらわなければいけない。

行政への期待

- 財政的支援をお願いしたい。
 - ・人づくりという教育活動はすぐに目に見えて成果があるものではない。「いじめ、裏金等」で倫理観を問われる今こそ人の教育が必要である。すぐに成果は見えないが、必要なものには支援するという県予算であって欲しい。

この人にお話をうかがいました！

NPO法人 いわむら一斎塾
理事長 堀井将成さん
副理事長 鈴木隆一さん

調査日：平成18年11月13日（月）
調査者：東濃振興局恵那事務所 北神